

賃金と睡眠時間

明星大学 梶谷真也†

要旨

本論文では、慶應義塾大学が実施する『日本家計パネル調査：KHPS データ』のマイクロデータを用いて、賃金率（時間当たり賃金）が睡眠時間に与える影響について睡眠時間が賃金率に与える影響を考慮するために操作変数を用いた固定効果モデルで計量的に分析する。その結果、少なくとも男性労働者では睡眠時間の増加が賃金率を上昇させていることが指摘される。そして、就業者が多く占める 60 歳未満の男性において、賃金率が 1%上昇すると 1 日の平均睡眠時間は 0.2 時間減少することが統計的に有意に確認される。一方で、60 歳未満の女性においても、わずかながら賃金率は睡眠時間にマイナスの影響をもたらすことが統計的に有意に確認される。これらの結果は、睡眠時間に対する賃金率上昇の効果について、男女ともに代替効果が所得効果を上回っていることを指摘している。

キーワード： 時間配分, 睡眠時間, 賃金, 労働時間, 労働生産性

† kajitani@econ.meisei-u.ac.jp

更新版は <http://www.hino.meisei-u.ac.jp/econ/kajitani/>を参照してください。